

令和3年度選書・除籍について（報告）

東久留米市立図書館

■ 選書の前提

1. 4館を一元化した資料管理

〈実績〉

- ・4館を一元化した選定体制を整え、市司書・指定管理者選書担当責任者・地区館司書による選定会議を行った。
- ・市は、4館を一元化した選書への理解を促進するため、各館へ選定会議記録を送付するなど選定情報の共有化を図り、必要に応じて実務担当者への説明・調整を行った。

〈評価・課題〉

- ・指定管理者は、自館の蔵書の上に注力している選書や、担当分野のみの選書など、4館全館を俯瞰して選書する意識が低いため、4館を一元化した蔵書構成を意識した選書を行う必要がある。なお、担当を細分化した選書体制としていることから、担当以外の分野についての選書に取り組みにくい傾向がある。

2. 図書館としてストックする資料（保存及び長期に利用する基本図書）とフローする資料（比較的短期間で入れ替わる図書）に留意した選書

〈実績〉

- ・各館で市民の課題解決や学習に必要な基本図書の見直しを行い、補充や買い替えを行った。また、フローする資料は時代や利用者のニーズに即した資料も積極的に収集した。
- ・各館・各担当による選定目標設定を行い、収集方針・収集計画に沿った選書を行った。
- ・市は、選書基準等を共有するため、選定会議記録を作成し、結果を各館にフィードバックした。
- ・自社ツール中心であった指定管理者の選書については、広範な視野での情報収集による選への変換を促した。
- ・児童書の新刊評価を継続しつつ、基本図書の買い替えを進めた。

〈評価・課題〉

- ・利用者の要望する資料の中には、購入適否の判断が難しい資料もある。選定基準に基づき、選定会議で議論し判断しているが、図書館の方針や選書基準については、引き続き公開し、利用者との共通理解に努める必要がある。
- ・ストックする資料とフローする資料のいずれにおいても、利用傾向や社会的ニーズの変化を捉えて、必要に応じて評価基準の見直しを行う。
- ・児童書の評価基準や子どもの読書・学習に関する基本的理解は、社会全体でも変化し、個々の司書の選書基準にも差が生じている。実際の子どものニーズを捉えつつ、専門家の知見に学び新刊評価を継続することで、評価基準の共有化を図っていく。

3. 中央図書館は拠点館としての多角的な選書

〈実績〉

- ・指定管理者と市司書による選書体制となり、全体で選書を行う体制としたが、地域資料・参考図書は概ね市司書が中心に行った。
- ・一般書の選書は、中心館として地区館では収集できない幅広い分野の基本図書、専門的な図書、参考図書を収集し、基本図書の充実と不足する分野の補充を行った。
- ・児童書・ティーンズ向けの資料は、児童や10代の利用者に直接提供する資料に加え、学校や地域の団体への貸出用の資料を選書した。
- ・一般書・児童書ともに、全館の資料保存機能は中央図書館にあり、書庫入れと除籍の最終検討を行うとともに、書庫資料の管理を行った。

〈評価・課題〉

- ・開架室・書庫のいずれも収容能力は限られており、書庫資料の活用や買い替え、更新による利用の活性化を図りながら、中央図書館としての資料提供と保存の役割を果たす必要がある。
- ・中央図書館は、地区館にはない蔵書・インターネット環境・学習席などの利点を活かして新たな利用者を獲得しつつ、課題解決や情報活用という図書館の目的に適う選書と蔵書構成を示していく必要がある。
- ・書架整理は、利用傾向を知り、蔵書構成を検証する機会として、選書には欠かせない業務であるが、十分に行われているとはいえない。また、利用データの解析や社会情勢の分析等を行い、選書のためのニーズ把握を的確に行う必要がある。

4. 地区館は特性を反映した選書

〈実績〉

- ・地区館は、身近な図書館として、実用書、教養書と児童書の基本図書を中心に選書した。
- ・3館とも共通して高齢者の利用が多く、活字資料を中心に情報収集をすることが多い世代であるため、エビデンスのある実用書に留意して選書を行った。
- ・児童書は、昨年度に引き続き基本図書の買い替えを進めた。

〈評価・課題〉

- ・館ごとに選定基準の理解に差があり、選書に偏りが生じることがあるため、4館一元化した選定を継続し、基本図書についての共通理解を図る必要がある。
- ・各館の利用状況と未利用者に向けた目標を意識した収集計画を立てる必要がある。

■ 令和3年度の選書の方向性

1. 情報活用やリテラシー獲得のための基本的な資料（各分野）の選書

図書館では、市民が生活や仕事上の課題について自己決定するための資料提供と情報活用支援を事業の最重点としている。選書においては、図書館の役割をふまえ、どの分野においてもエビデンスに基づく適切な図書を判断する。

〈実績〉

- ・年代を問わず、市民の課題解決のための資料提供と情報活用支援を行うため、どの分野もエビデンスに基づく適切な内容の図書を選書した。
- ・社会情勢の変化により新たに生じた社会問題など、これまでの知識では対処が難しい分野を理解するための図書を選書した。
- ・学校教育や行政での ICT 利用、インターネット利用の拡大と DX 推進といった社会の変化に対応した情報化が一段と進んでいることから、情報活用とリテラシー獲得に役立つ図書を選書した。

〈評価・課題〉

- ・自己決定するための資料提供と情報活用支援という図書館の役割に対し、必要な市民が十分に利用しているとは言えない現状をふまえ、未利用者に届く魅力ある選書を行う必要がある。
- ・図書や新聞などの活字資料や、テレビ視聴等を情報収集の中心としている市民に対しては、関心の高い分野の適切な図書を提供し、情報リテラシーのための資料にも留意する。
- ・活字資料と並行して、インターネット情報やデータベースの利用を進め、活字資料とインターネット情報のそれぞれの特性を生かした資料提供を図る。

2. 基本図書の充実

児童から一般までの市民の学習や情報取得に役立つ入門書、教養書、実用書、専門書等の基本的な図書をそろえる。利用の多い文学や娯楽書と基本図書のバランスを取り、多くの市民の理解を得られる蔵書構成を目指す。

また、児童書は長く読み継がれたスタンダードな図書を蔵書の核とするとともに、司書による新刊書の評価を継続する。

〈実績〉

- ・市民の学習や情報取得のために、中央図書館では基本図書（入門書、教養書、必要な専門書）の部門別選定を行った。地区館では実用書、教養書を中心とする基本図書を選書し、不足する分野を補い情報を更新した。
- ・児童書は長く読み継がれたスタンダードな図書を常備し、それに準じる新刊書の評価と複本の検討を行った。また、学習や学校支援用の図書の購入を行った。

〈評価・課題〉

- ・収集方針と選書基準にそって基本図書の選定を行うため、調査と議論を行う選書体制を継

続する。

- ・選書後の受入資料の利用実績の検証、除籍候補資料の検討の結果を、次の選書にフィードバックする。
- ・新たなニーズの検討を行い、基本図書や必要な実用書を常にアップデートしていく。
- ・選書を行う司書のスキルを維持する必要がある。

3. 児童書の買い替え（地区館を重点的に）

すべての図書館で、蔵書の核となるスタンダードな児童書を常に更新し、必要数備えることで、児童や保護者が、それらの本と出会う機会を増やす。

〈実績〉

- ・基本図書を買い替えることにより、利用の促進を図った。
- ・新刊評価を継続し、基本図書の評価基準の共有化を進めた。

〈評価・課題〉

- ・新刊書の評価や買い替えの判断は、基本図書の評価基準に沿って判断する必要がある。除籍図書の買い替えでは、貸出実績だけではなく長く読み継がれたスタンダードな図書を蔵書の核とする蔵書構成を念頭に再度評価を行う。
- ・各館の収容能力が限られている中で、児童書は基本図書を全館に備える必要がある。また、子どもとその保護者に、読書と学習に必要な基本図書を示す蔵書構成とする。
- ・児童書の選書を行う司書は、基本図書とその選書基準を理解し、評価を継続できるスキルが必要である。

4. 未利用者のニーズを取り込んだ選書

図書館の利用は市民の 10%程度という現状であるが、図書館の役割は低くないと考えられる。顕在化しているニーズだけでなく、未だ図書館を利用していない市民が必要とする資料や情報、社会が求める資料や情報をとらえて選書を行う。
各館・各担当で未利用者ニーズを検討し、それに対応した資料提供を行う。

〈実績〉

- ・指定管理者は、ティーンズ・働く世代・子育て世代・高齢者と年代ごとの課題を掲げた資料収集計画にもとづく選書を行った。（指定管理者の自己評価は後述）

〈評価・課題〉

- ・指定管理者の選書は、各館の現在の利用者や、貸出実績を想定した選書となりがちであった。社会の変化に着目する一般的なニーズ把握は行っているが、未利用者を意識したニーズ把握と選書が必要である。
- ・各対象に向けたコーナー設置と運営だけでなく、対象とそのニーズを明確にした選書や、目的を意識した積極的な取り組みが必要である。

■ 市が担当した業務

1. 地域資料・行政資料

〈実績〉

- ・行政資料については、秘書広報課と連携した収集と受入の体制がほぼ順調に機能し、収集することができた。
- ・地域資料については、市内各団体の配布物、情報誌、図書等を収集したが、網羅的な収集には至っていない。

〈評価・課題〉

- ・地域資料の網羅的収集は難しい課題であるが、収集の仕組みづくりから始め、地域の団体や個人の協力を得ながら進めることを検討したい。

2. 参考図書

〈実績〉

- ・一般書同様に、不足する分野の基本図書や更新が必要な資料を選書した。また、商用データベースを増やすとともに、新規データベースの導入について検討した。

〈評価・課題〉

- ・参考図書や定期刊行物では、紙媒体から電子媒体による利用に置き換わった資料がある。統計や政府刊行物等も、インターネットで情報取得できるようになり、提供媒体に変化がある。図書館の収容能力が限られることも勘案し、一定期間の提供であり、長期保存しない資料の提供方法（媒体）や、書庫での保存資料の見極め等、資料提供と保存についての課題整理と検討を進める必要がある。
- ・インターネットによる情報提供や商用データベースによる情報提供について調査・研究する。また、地区館の参考図書についても調査・研究する。

3. ハンディキャップ資料

〈実績〉

- ・UD 資料として、触る絵本・LL ブック・大活字本等を収集した。

〈評価・課題〉

- ・読書や図書館利用に対する様々な形の障害に応じて、多様な形態の資料や提供方法を用意する必要がある。特に、アプリやインターネットを活用した情報提供について調査・研究し、個々の図書館利用者が活用できるように準備を進める必要がある。

■ 除籍

〈実績〉

- ・除籍フローの確立により、除籍基準に基づき全館で適切に行われている。なお、定型的な除籍（汚破損・複本・内容の更新等）は担当館で判断し、書庫の保存を含めた判断は中央図書館部門別選定会議で行い、最終判断は市が行っている。
- ・市の最終確認においては、除籍候補資料から地域資料（必須保存）や基本図書（時代性、学術的価値、利用度、類書を勘案）について検討したうえで除籍の決定をしている。

〈評価・課題〉

- ・これまで市が専任で行っていた除籍の判断を指定管理者が行うにあたり、除籍フローを明確にし、市による最終判断の段階を設定したことにより、さらに丁寧な調査と除籍事由の明確化を図ることができた。
- ・実際に除籍検討をする司書の収集方針の理解と、基本図書を判断する知識といったスキルが必要である。

令和3年度資料収集計画の実績と自己評価

TRC・野村不動産パートナーズグループ
代表団体 株式会社図書館流通センター

■令和3年度東久留米市の選書の方向性について

1. 情報活用やリテラシー獲得のための基本的な資料（各分野）の選書

【自己評価】

- ・生活や仕事上の課題について、正確な情報を取得し、適切に活用するための資料を収集した。
- ・昨今クローズアップされているテーマにおいて、エビデンスに留意しながら資料収集を行った。

【課題】

- ・社会の動向や、多様化に対応した資料の選書ができているか、分野により偏りや不足がないかを検証する。

2. 基本図書の充実

【自己評価】

- ・一般書に関して、地区館では入門書、実用書、教養書を中心に、地域ニーズに留意したコーナー（滝山図書館：健康医療、ひばりが丘図書館：子育て、東部図書館：シニア）における基本図書の充実をはかった。中央館においては、加えて専門書等の図書の補完を行った。
- ・児童書に関しては、司書による新刊書の評価と連動した選書を行うことで、蔵書の質を保つように努めた。

【課題】

- ・時代に応じて変化していく基本図書に留意し、適宜入れ替えを行う必要がある。

3. 児童書の買い替え（地区館を重点的に）

【自己評価】

- ・長く読み継がれているスタンダードな図書や各種ブックリスト（「はるにれ」「いろはにほん」）に掲載されている図書については、積極的な買い替えを進めたことで状態の良い資料を常に利用者に提供することができた。

【課題】

- ・今年度は主に性教育の分野について見直しを行ったが、その他の分野についても、今の時代に合うよう資料を吟味し、買い替えを行う必要がある。

4. 未利用者のニーズを取り込んだ選書

「令和3年度 資料収集計画」（指定管理者作成）の項で記述

■「令和３年度 資料収集計画」（指定管理者作成）について

- ・令和３年度は「ティーンズ世代」「働く世代」「子育て世代」「高齢者」と世代を分け、それぞれの未利用者を想定して選書を行った。
- ・これまでの利用状況や地域性を考慮に入れ、中央図書館では「働く世代」、ひばりが丘図書館では「子育て世代」、滝山図書館と東部図書館では「高齢者」に向けての選書に力を入れた。
- ・全館において未利用者が多いと考えられている「ティーンズ世代」については、中央図書館を中心に全館で積極的な収集を行った。

➤ ティーンズ世代に向けた資料

【自己評価】

- ・ジェンダーやLGBTQ、ヤングケアラー等、生き方や現在の社会問題に関する資料を収集した。
- ・社会の様々な事柄に関心を持つようになる世代であることを考慮し、環境やファッション等の幅広い分野から新たな知識を得られる資料を収集した。

【課題】

- ・実際にティーンズ世代と交流できる機会（職場体験・「ぼけ☆ま」制作等）や、書評・インターネットから得られた情報を選書に反映させる。

➤ 働く世代に向けた資料収集

【自己評価】

- ・中央図書館では、「仕事・情報」コーナーの資料の充足を図り、働く世代に役立つビジネス情報を充実させた。
- ・全館において、仕事のスキルアップにつながる実用的な資料を収集し、働く世代のニーズに応えられるよう努めた。
- ・コロナ禍における働き方の多様化に合わせた資料を収集した。

【課題】

- ・仕事に役立つ資料を引き続き収集し、情報の古くなった資料については、適宜入れ替えを行う必要がある。
- ・働き方の多様化に関する資料については、今後の社会の動向を見極めながら、選書に反映させる。

➤ 子育て世代に向けた資料収集

【自己評価】

- ・多岐にわたる保護者の悩みに対応するため、幅広く資料の収集を行い、悩みの解決に役立つ資料や情報を充実させた。
- ・子どもの読書環境を整えるにあたり、参考となる絵本のブックガイド等を収集した。

【課 題】

- ・ 保護者の悩みに対応する幅広い選書を継続する。
- ・ 子どもを取り巻く環境について、必要な情報を得られる資料を収集する。
- ・ 絵本のブックガイドだけではなく、子どもへ本を手渡す方法や、読み聞かせについて学べる資料を収集し、子どもの読書環境の整備を図る。

➤ 高齢者に向けた資料収集

【自己評価】

- ・ 高齢者にとって関心の高い健康・医療の分野において、正確なエビデンスに基づいた資料を充実させた。
- ・ 福祉、財産管理等については、最新の情報が掲載された資料を収集した。
- ・ 同世代の著者による資料等を収集し、生活を前向きに捉えて暮らす人の参考になるよう努めた。

【課 題】

- ・ 健康・医療の分野においては、情報が古くなった資料の買い替えを進める。
- ・ 高齢者をひとくくりに捉えることなく、年齢層や多様な考え方に配慮した選書を行う必要がある。
- ・ 課題解決のための実用的な資料（財産管理・福祉等）と、生活を豊かにするための資料（文学・趣味等）をバランスよく収集する。

選書について

「市民の自立を支援する図書館」を目指す図書館像とし、市民が求める情報に的確にたどりつき、学校や暮らし・仕事に関わる課題を解決できるための資料提供を選書の柱とします。

中央図書館では、実用書、教養書、児童図書に加え、参考図書や必要に応じて学術書を収集します。知識を深め、さらに掘り下げた部分まで知りたいという知的好奇心にも対応できる、専門性の高い資料も必要に応じてそろえます。

選書にあたっては、カウンター業務やレファレンスなど来館者との応対や整架や配架等による蔵書の動きに留意し、職場体験やアウトリーチの中でのニーズ把握に努めるとともに、書店での現物確認、新聞の書評、出版社の発信する情報、インターネット、新刊情報カタログ等から幅広く情報を収集します。

司書のスキルアップのための方策として、スタッフそれぞれのレベルに合わせた研修を定期的に実施します。

■ ティーンズ世代を対象とした資料収集に注力する。

- ・ 様々な生活環境や、多様な個性の受け皿となれるよう幅広い分野から図書の選定を行います。
- ・ 中学生が、自身で物事を考え、理解する手助けとなる資料、進路選択のための資料、10代に支持される小説など、魅力ある蔵書構成とします。

■ 働く世代に向けた資料を収集する。

- ・ 働く世代（勤労者や個人事業主のうち、20代～40代を想定）の仕事に役立つ資料を収集します。
- ・ ニーズの把握に努めるとともに、自身や仕事のスキルアップを図るための図書を選定します。
- ・ コロナ禍における働き方の多様化、ジェンダーやハンディキャップ、不安定な社会状況など、現代社会を知り、個々の選択を助ける資料を収集します。

■ 子育て世代に向けた資料を収集する。

- ・ 子育て世代の課題を解決する手立てとなる資料と情報を幅広く提供します。
- ・ 子育ての不安や孤立、仕事と家庭の両立、子どもの発達の多様さなど、現代の子育てに配慮し、個々の視点に立った図書を選定します。
- ・ 子どもの読書は、周囲の環境や大人の働きかけが大きな役割を担うため、保護者や保育者・教員など、子育てにかかわる人への情報提供を行うとともに、児童向けの基本図書を充実させます。

■ 高齢者に向けた資料を収集する。

- ・ 本から知識や情報を得る方が多く、図書館の利用も活発な世代です。健康や財産管理など、適切な情報による自己決定の機会が増える年代でもあり、適切な情報提供とリテラシーを獲得するための資料提供が重要です。
- ・ 新しい学びや生き方の選択肢をひろげる資料提供にも留意します。